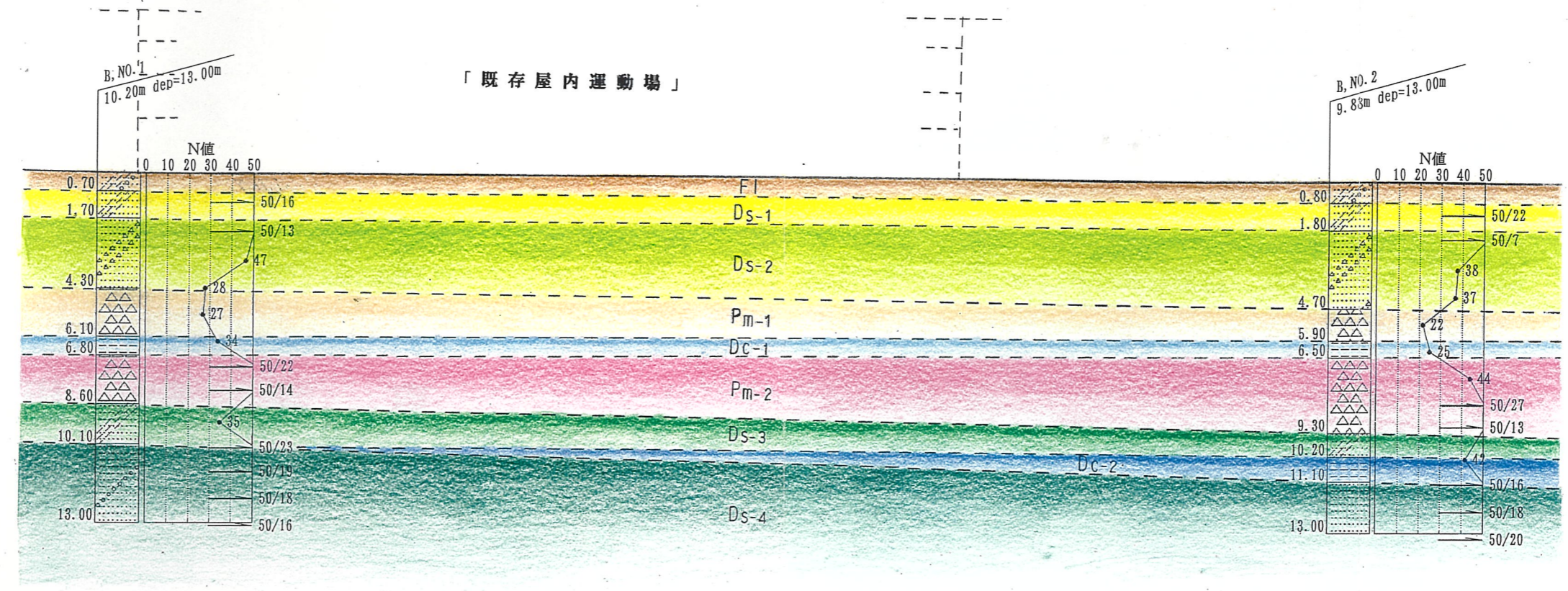


標高 (m)
+15
+10
+5
0
-5
-10



標高 (m)
+15
+10
+5
0
-5
-10

1/200.00
1/200.00

「地層想定断面図」

「調査区間の地質構成一覧表」

時代	地質区分	土質名	記号	N値 (回)	記 事
第 四 新 世 紀	埋 土	礫混りシルト質砂	FI	—	砂分粒子は中～粗砂を主体とし、φ20mm程度までの礫を混入する。上位20cm程度はマサ土。
		シルト質砂	Ds-1	50以上	砂分粒子は細砂を主体とする。全体的に固結状を呈す。
	滝尾層 (菅原寺軽石層)	軽石質砂	Ds-2	37 50以上	砂分粒子は細～中砂を主体とする。部分的にφ30mm程度の軽石を混入する。
		軽石層	Pm-1	22 28	φ2mm～5mm程度の軽石を主体とする。B.No.2では薄層でシルトを介在する。
		シルト	Dc-1	25 34	弱固結状を呈し、少量の腐食物を混入する。
		軽石層	Pm-2	44 50以上	φ2mm～5mm程度の軽石を主体とする。固結度比較的高く、送水掘進でコア残留する。
		シルト質砂	Ds-3	35	砂分粒子は細～中砂を主体としシルト分を含む。φ5mm以下の礫を混入する。
		シルト	Dc-2	42	固結度高く、送水掘進でコア残留する。B.No.2で確認。
		礫混じり砂砂	Ds-4	50以上	砂分粒子は中～粗砂を主体としφ10mm以下の礫を混入する。部分的に弱固結状を呈す。

